



多汗症の中医弁証論治

黄 懷龍



一、はじめに

多汗症は、異常に多量の汗をかく病証である。汗腺機能の亢進状態や、汗腺に薬理学的作用をもつ薬剤、発汗神経の異常など種々の原因でおこる。

中医学では陰陽失調により、営衛不和、腠理不固、異常な汗液の排泄と考え、「汗症」、「自汗」、「盗汗」、「黄汗」などを称される。

多汗症は、主に二種類に分けられる。

1、**全身性多汗症**は、体質によるほか、甲状腺機能亢進、自律神経失調、リウマチ、結核病などで見られる。

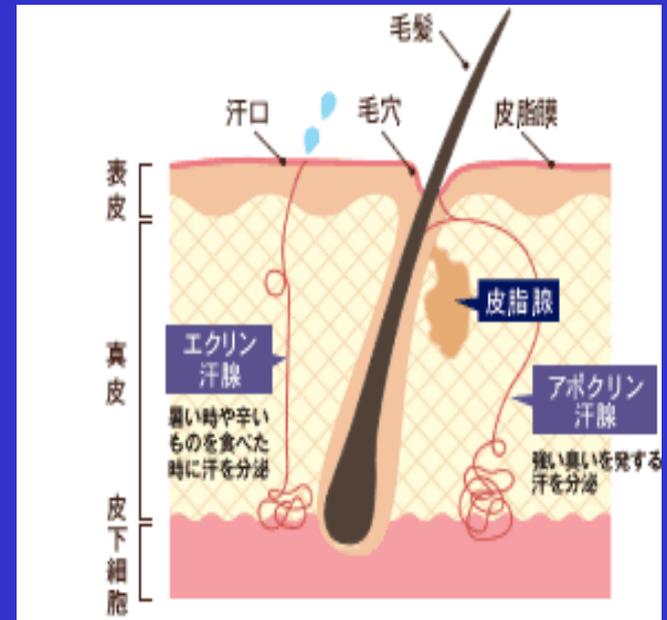
2、**局所性多汗症**は、顔面、わきの下、手のひらや足の裏、外陰部に、精神的な緊張で普通以上に汗をかくものをいう。「掌蹠多汗症」や「腋臭症」、「上半身の多汗」、「片側性多汗症」などがある。

二、発汗の生理

1、汗腺の分類と作用

エクリン腺 ・ ・ 全身に分布、体温調節に直接関係する。殆どは水なので匂いはあまりない。

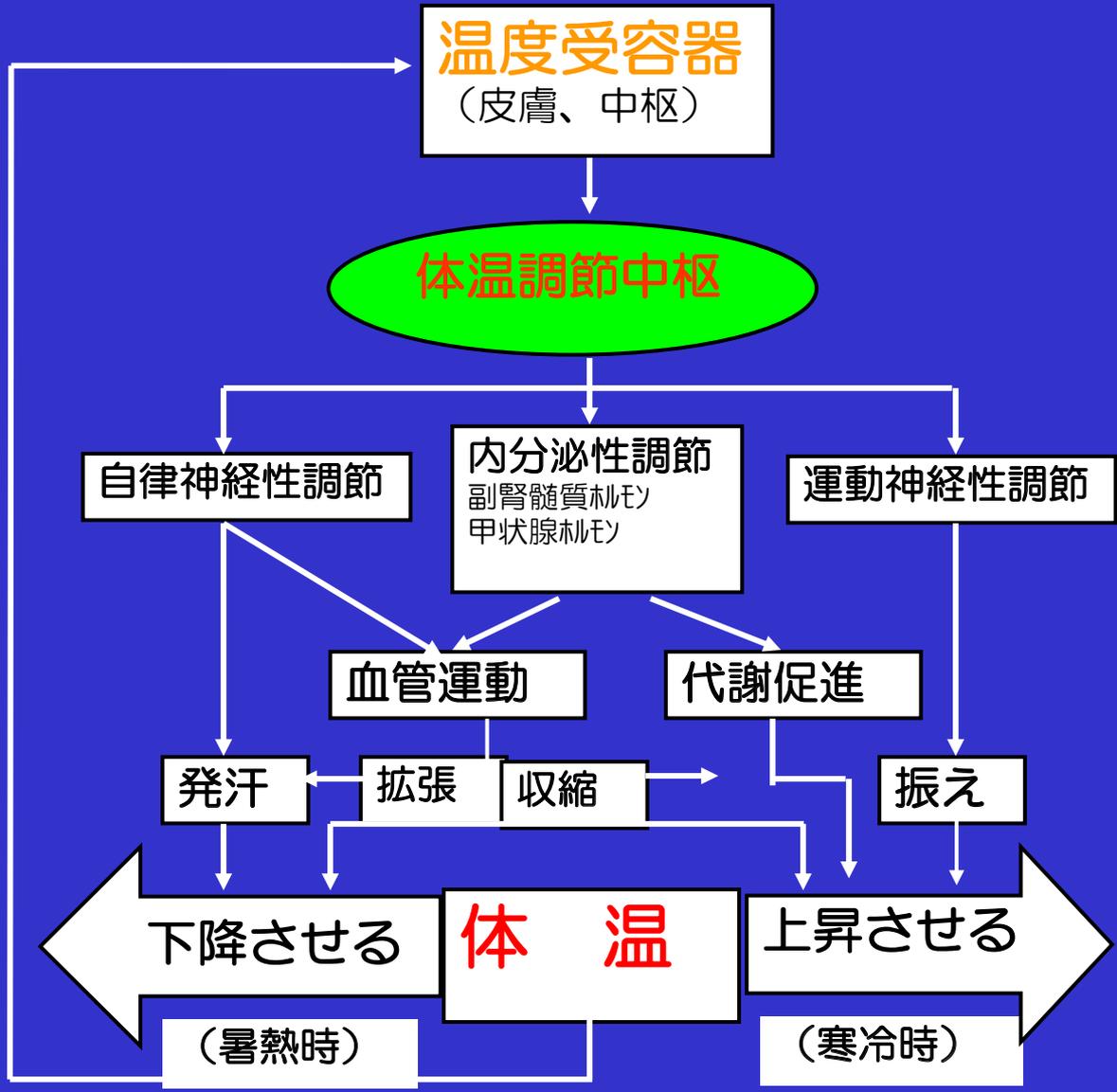
アポクリン腺 ・ ・ 腋窩に多く、乳頭、外陰部、肛門にも分布して、体臭が発生する。



2、発汗の種類

- 温熱性発汗・・・体温の上昇が刺激となって生ずる発汗。全身性である。
- 精神性発汗・・・精神的ストレスが刺激となって生ずる発汗。手掌、足蹠、腋窩、鼻尖など。
- 味覚性発汗・・・辛いものを食べたとき、顔面だけ（鼻尖、額）発汗する。

体 温 調 節 機 構



三、中医学の考え方

中医学では、汗の生理や病理に対し、既にか
かなりの認識がある。

発汗は、外界の気温に深い関わりがあり、
『内経』では「天暑衣厚、則腠理開、故汗出
……、天寒、則腠理閉、気湿不行、水下留於膀
胱、則為溺与氣」としている。

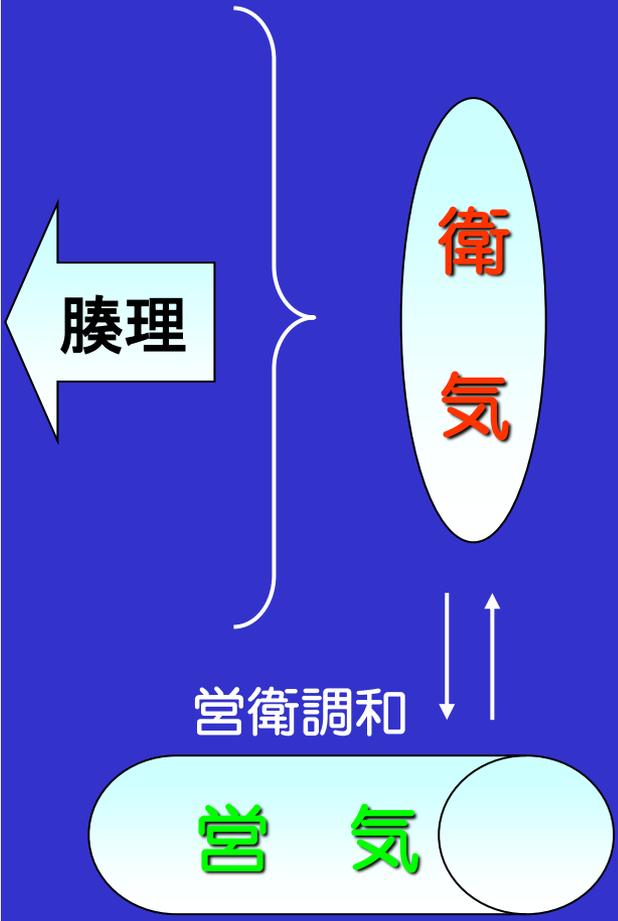
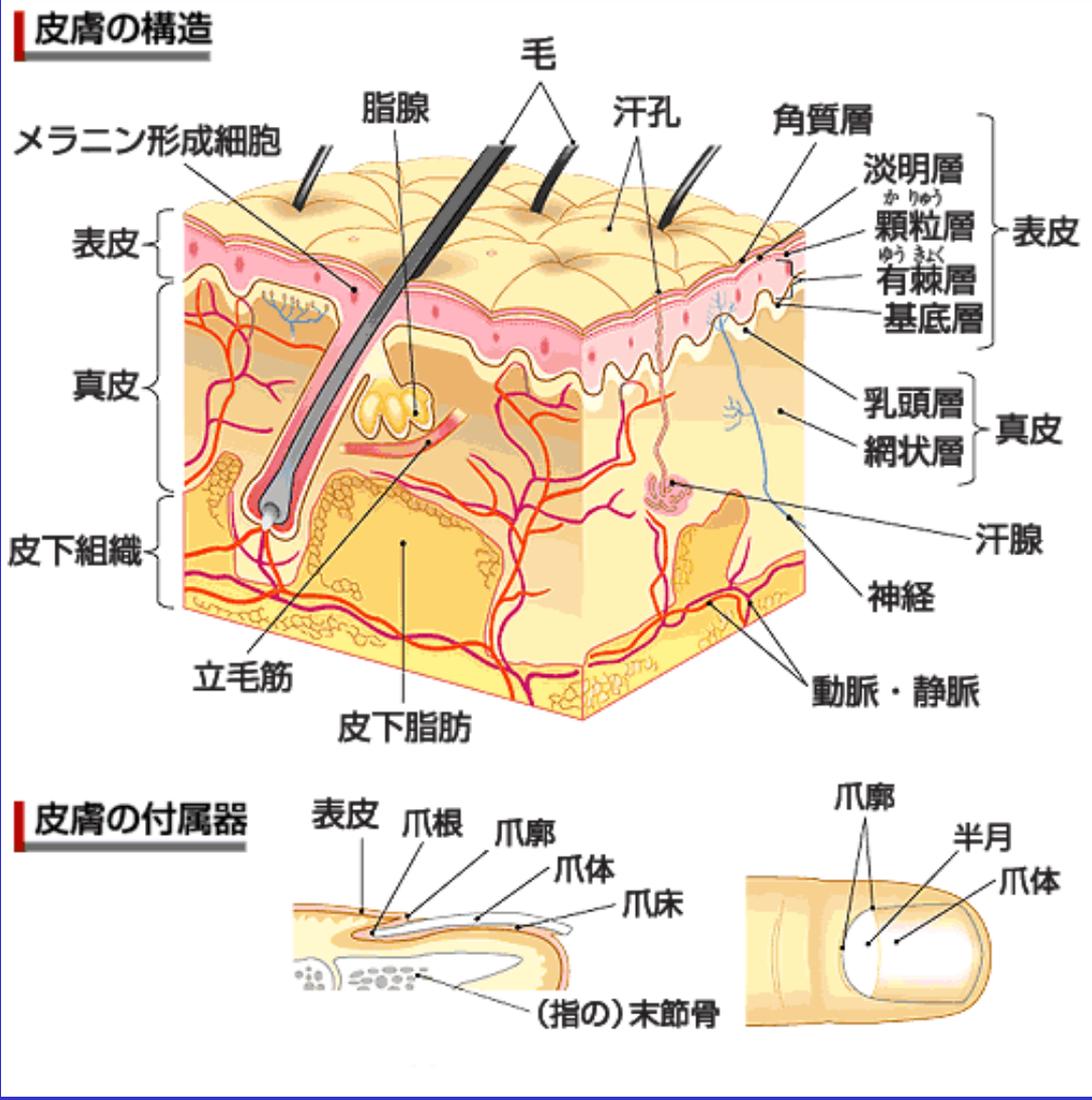
正常な発汗は人体の生理現象である。炎暑、
厚着、熱湯を飲む、感情が動揺する、労働や走
るなどの状況では発汗量が増えるが、これは正
常な生理現象である。

1、肺主皮毛

肺は気を主り、呼吸を司る、皮毛に外合する。皮毛は皮膚、汗腺、体毛などの組織を含み、全身の表となり、体表バリアの仕組みを働いている。

汗の正常な分泌は、肺気の宣発、営衛の調和、正常な新陳代謝、皮膚を滋潤する作用がある。表邪を感受したときは、発汗は邪を追い出す方法の一つである。

2、營衛と発汗



四、病因病機

1、肺氣不足

平素の虚弱体質、病後体弱、或は長引く咳、喘息をし、肺氣を損傷して発生したもの。肺と皮毛は表裏関係なので、肺氣が不足した人は、皮膚の緻密さがなくなり、衛氣が体表を固められないので、腠理がゆるみ、汗腺が開いて発汗する（自汗）。

2、營衛不和

体内で陰陽のバランスが崩れていたり、表虚の人がわずかな風邪を感受したりして、營衛が不和となって、衛氣が体外を守れなくなり、營陰が内を守れなくなり汗が出る。

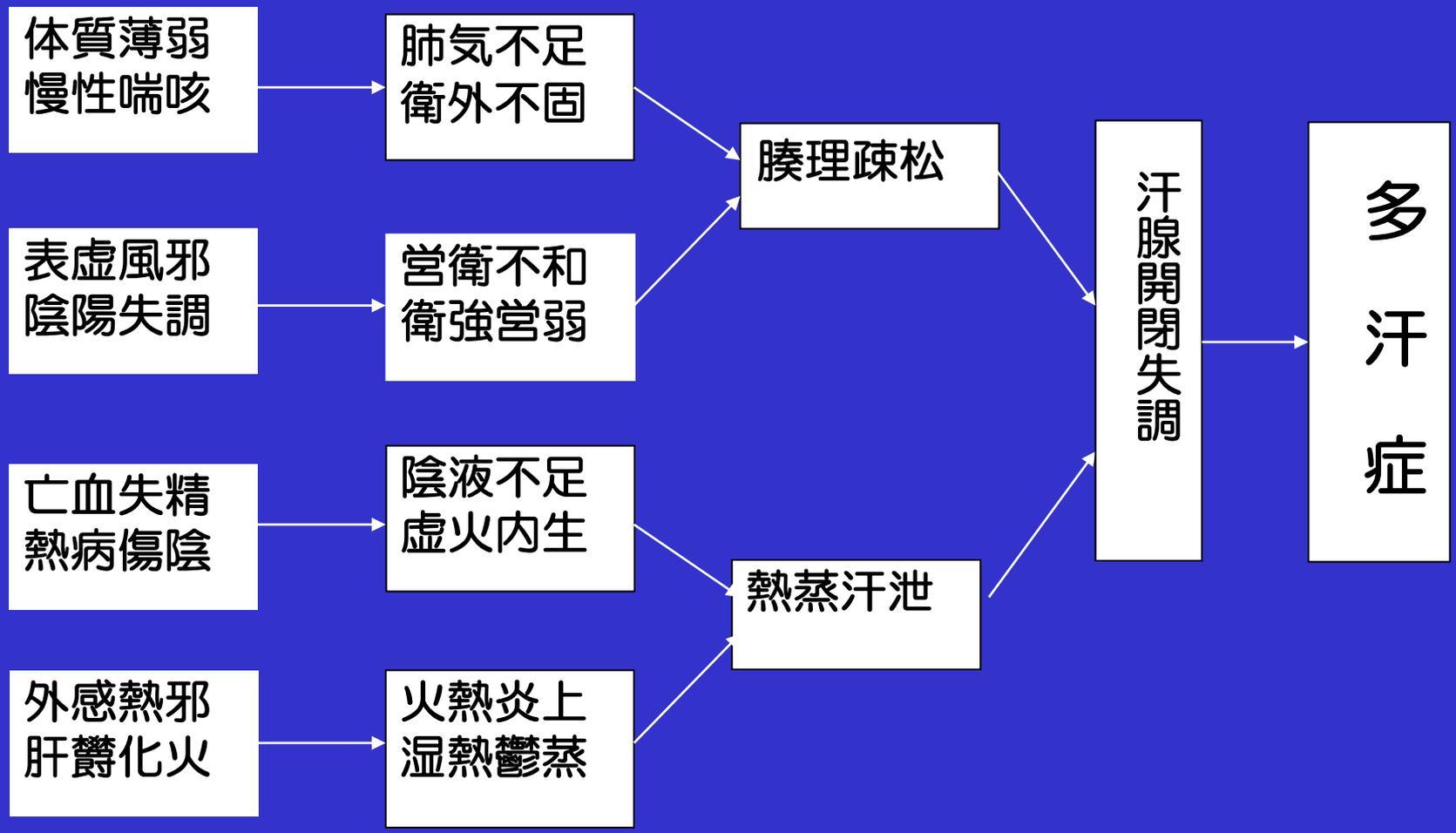
3、陰虚火旺

疲れ過ぎる、失血、失精、或は邪熱が陰液を消耗して陰精が虚損となり、虚火が内生し、陰津が蒸され、体内にとどめることができず、体外に排泄されて汗となる。

4、邪熱鬱蒸

外感熱邪或は七情所傷、様々理由で、肝気鬱結し、肝火が偏盛した場合、或は辛いもの、味の濃い物を好んで摂取、或いは平素体の湿熱が偏盛している場合には、肝火或は湿熱が内盛し、火熱が鬱積して津液が蒸され、体外へ排泄されて汗が多くなる。

多汗症の病因病機



五、辨証論治

1、汗の鑑別

	汗の特徴	主な随伴症状	病機
自汗	昼間に発汗、動くとさらに汗をかく	倦怠感	気虚
盗汗 (寝汗)	睡眠中に発汗、目が覚めると止まる	ほてり	陰虚内熱
黄汗	黄色い汗	口苦、舌苔黄膩	湿熱内鬱
戦汗	悪寒、戦栗、発汗	発熱、煩燥	邪正相争
脱汗	大汗がしたたり落ちる、珠のような汗をかく	神衰、肢冷、脈は微弱で絶えそう	正気欲脱

2、症候弁別

	肺衛不固	営衛不和	陰虚火旺	湿熱鬱蒸
症状	発汗して悪風する体を少し動かすと汗が多量に出る風邪を引きやすい倦怠感、顔色に艶がない	発汗して悪風し、寒かったり熱かったりする、または半身や局所的に発汗、全身がだるい	睡眠時の寝汗ほてり、午後の潮熱	蒸すように汗が出る、汗が粘る、ときには黄色い汗をかき顔面紅潮、煩燥口苦、尿黄
舌脈	舌苔薄白 脈細弱	舌苔薄白 脈緩	舌質紅苔少 脈細数	舌紅苔黄 脈滑数
病機	肺気不足によって腠理が固まらなく、汗が外泄する	営衛の調和が失われ、腠理が疏松になる	陰精不足から虚火が内灼することによって、津液を攪乱して外泄する	湿熱内盛から邪熱が鬱蒸することによって、津液を攪乱して外泄する
治法	益気固表	調和営衛	滋陰降火	清肝泄熱 化湿和営

3、証 治

(一) 肺衛不固

[症状] しきりに汗が出て悪風し、少し動くと発汗がひどくなり、風邪をひきやすい。倦怠無力、顔の色艶がない。舌苔は薄白、脈は細弱。

[治法] 益気固表

[方剂] 防已黄耆湯・玉屏風散

[加減] 気虚がひどければ、コウジン末を加える。或は人参養栄湯を加える。気虚から更に陽気不足、寒がり冷えなどがあれば、加工ブシ末を加えて温陽固表止汗する。

(二) 營衛不和

[症状] 汗が出て悪風し、全身が痛だるく、寒気がしたり熱感があったりを繰り返す。或は半身や特定部分から発汗する。舌苔が薄白、脈緩。

[治法] 調和營衛、固澁止汗

[方劑] 桂枝加竜骨牡蛎湯

[加減] 氣虚があればコウジン末を加え、或は防已黄耆湯を加えて、氣を益して表を固める。陽虚寒気があれば加工ブシ末を加え、陽をあたためて陰を収斂させる。精神恍惚、睡眠不安で半身や局所に汗をかくなれば、甘麦大棗湯を併用し、養心緩急をする。更年期の冷えのぼせやイライラを伴う多汗では加味逍遙散を加える。

(三) 陰虚火旺

[症状] 寝ているときに盗汗があり、五心煩熱、午後の潮熱があり、両頬が紅く、喉が渇く。舌質が紅く、舌苔が少なく、細数脈。

[治法] 滋陰降火

[方劑] 六味地黄丸十黄連解毒湯

[加減] ストレスによる精神性発汗では、柴胡加竜骨牡蛎湯と六味地黄丸を合方する。口舌乾燥、煩躁発熱、小便不利を伴う場合には清心蓮子飲合六味地黄丸にかえる。

(四) 邪熱鬱蒸

[症状] 日が照り付けたように汗が出、汗液がベトベト粘い、或は衣服が黄色く染まる。顔は赤くて焙られたように熱く、高熱でもがき、胆汁が熱で胃へ排出され、それが口に上がって苦く、小便の色が黄色くなる。舌苔は薄黄、脈は弦数。

[治法] 清肝泄熱、化湿和營。

[方劑] 龍胆瀉肝湯十茵陳五苓散。

[加減] ストレスが原因の精神性発汗による腋臭多汗では柴胡加竜骨牡蛎湯を加える。陽盛内熱、肥満便秘を伴う多汗症には防風通聖散に変更して。肝気鬱結、のぼせ、更年期障害の多汗では加味逍遙散を加える。



ご清聴ありがとうございました！